

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

クリスチャンが増えれば世の中は悪くなる

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

刺激的な文章に出会いました。正確に転記しますと、「今、全国の教会は真剣に考えてほしい。福島原発事故が起こっても、教会は社会の問題とは関係がないと言えるのか。少なくとも教会は目が覚めて、まずは学習会から取り組み始めている。しかし、もしそれでも教会はこうした社会の問題とは関係がないと言うなら、私は、『それならば、クリスチャンが増えれば増えるほど、世の中は悪くなる』とお答えしよう。」(原発とキリスト教～私たちはこう考える 45頁 内藤信吾 新教出版社)

これは、長年原発問題に取り組んでおられる一人の牧師の、重くかつ見過ごしにできない問いかけではないかと思います。教会はいのちの問題を扱うところです。何よりもいのちを大切に生き方をすることを神から命じられているところです。み言葉を語る、福音を伝えるということの中に、通奏低音としてしっかりと流れ続けていることは、このことなのではないでしょうか。この視点から、教会は、クリスチャンは、社会の問題に、政治の問題に関わっていくのだと考えます。福音を語り伝えるということは、このこととしっかりとリンクしているのだと思っています。

今年の9月に日本聖公会宣教協議会が開催されます。2010年に開催されたプレ宣教協議会に続く、いわゆる本番の宣教協議会です。その骨子もだいぶ固まっていますが、福音を宣言すること、洗礼を授けるということの現実の中に、被造物の保全に関心を向け、地球のあらゆる命を支えるために活動することに関して協議されるのだと思います。原発事故は、私たちに反省と共にそのことを気づかせてくれたのではないのでしょうか。

昨年クリスマスの時期、一つの素晴らしい体験をしました。私のパートナーに、他教派の方から、自分が所属している教会のクリスマス案内が送られてきました。その中に自分で書かれたお誘いの手紙が入っているのです。「長い間お会いできないままですが、久しぶりにクリスマス礼拝においでくだされば

□会議・プログラム等予定

(1月25日以降および
前回報告以降追加)

- 1月
25日(水) 原発事故と放射能に関する
ワーキング・グループ会議
25日(水) 58-11 常議員会
26日(木) 文書保管委員会
27日(金) 教礼組教理部会
27日(金) 懲戒及び管区審判廷規則
検討特別委員会
30日(月) ～31日(火) 正義と平和・
沖縄プロジェクト会議
- 2月
1日(水) ナザレ修女会の修道生活を
支える会
1日(水) 年金委員会・年金維持資金
管理委員会合同委員会
2日(木) 教礼組教理および礼拝主査
会
6日(月) 宣教協議会実行委員会
7日(火) ～9日(木) 主教会〔川越〕
9日(木) 教区間協働デスク
15日(水) 広報主査会
20日(月) 神学教理委員会
23日(木) 主事会議
27日(月) 第2回聖公会平和協議会
実行委員会
28日(火) 正義と平和委員会
- 3月
2日(金) 文書保管委員会
5日(月) 礼拝委員会
6日(火) 収益事業委員会
8日(木) 財政主査会
11日(日) ～12日(月) 各教区青年担
当者会(東京・牛込聖バル
ナバ教会)
12日(月) 青年委員会
13日(火) ～15日(木) 管区共通聖職
試験
21日(水) 原発事故と放射能に関する
ワーキング・グループ会議
22日(木) 主事会議
23日(金) 教役者遺児教育基金・建築
金融資金運営委員会
28日(水) ～30日(金) 新任研修会(狭山)
<関係諸団体会議等>
1月26日(木) ～28日(土) 外国人住民

(次頁へ続く)

と思っています。〇〇駅の改札口で〇時〇分過ぎまでお待ちしています。」

ひとりが一人を、とは昔から言われている宣教方策のスローガンのひとつですが、この方は何人もの人に同じように接しているのでしょうか。そして、誘いの声をかけることを通して、主の福音に近づけようとされているのだと思います。クリスマスという時期は、それがやりやすい時でもあるのだと思います。まだ先のことになりますが、今年のクリスマス、またそれ以外のふさわしい時に、ご自分のアイデアを加味して、語りかけることをなさってみてはいかがでしょうか。と同時に、教会は、意を決して足を運んできた方に対してどのように対応し、受け入れるのかということは大きな問題なのだと思います。もちろんそんなことは十分にご承知のことと思います。

面白い話があります。教会にはじめて来られた方が再び来る確率が高いのは、その時に3人以上の方から声をかけられたかどうか、ということが大きなポイントなのだそうです。実験したわけではありませんが、なんだかうなずけるような気がします。宣教の働きとはそんな身近なところにもあるのではないかと思います。もちろんそのときには“さりげなく”という態度を忘れてはならないでしょう。

教会が生き生きとし、また行きたくなるようなところになりたいものです。自分のいのちも人のいのちも、みな大切にされていることが見えるよ

(前頁より)

基本法の制定を求める全国
キリスト教連絡協議会(外キ
協)全国協議会〔東京、韓
国YMCA〕

2月3日(金) NCC国際分かち合い委
員会

14日(火) 統一協会問題キリスト教
連絡会

17日(金)~18日(土)〔U26〕の袋市川

20日(月) 聖公会生野センター理事
会

22日(水) ~ 3月12日(月) 国連女
性の地位委員会〔ニューヨー
ク〕(田中弘み氏、西間木美
恵子氏出席)

26日(月) ~ 27日(火) 第34回N
CC総会(日本聖公会東京
教区 聖アンデレ教会)

うになっている教会の姿を作り上げていこうとす
るとき、社会問題だ、政治の問題だということ
を乗り越えていくことができるのではないでしょ
うか。祈りをする、福音を宣教すること、み言
葉を語る、その行為が意味することは何かを
考えてみたいものです。(自分のことは棚に上げ
て、との声が聞こえてきそうですが…)

クリスチャンが増えれば世の中が“良くなる”
と自信を持って言い切れるような世界にしてい
こうではありませんか。



□常議員会

第58回(定期) 総会期第11回 2012年1月
25日(水)

<主な決議事項>

1. 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員
変更の件

次の変更を承認した。

(1) 司祭 八戸 功(東北)、司祭 斎藤英樹
(北関東)を委員に追加する。

(2) これに伴い、総主事 司祭 相澤牧人を委
員から外し委員会陪席とする。

2. 東日本大震災による支援費用支出追加の

件

下記の支援費用追加支出を承認した。

(1) 被災教会・幼稚園(6件) 建物修理費用
4,261,805円

東北教区会館、仙台聖フランシス教会、
山形聖ペテロ教会、郡山聖ペテロ聖パウ
ロ教会、小名浜聖テモテ教会、(学)みそ
の幼稚園

(2) 被災者見舞金(12件) 1,900,000円

(1) + (2) 合計 6,161,805円

次回、次々回常議員会:

3月15日(木)、4月19日(木)

□主事会議

第58(定期)総会期第19回
1月19日(木)

1. 総会議案に関して

以下の議案を提出することとした。

議題:聖公会生野センターの働きを憶えて祈り、信施奉獻を継続する件

実施期間を2013年からとし、次期定期総会で見直す。

(今回2年間としたのは、他の特定主日の信施奉獻と見直す時期を同じくするため)

2. WCCの依頼事項に関して

下記スチュワードプログラムの募集依頼に関し、対処方を青年委員会に委託する。

「2013年プサンで開催予定のWCC第10回総会に備えて、2012年8月23日(木)から9月7日(金)ま

でギリシャ・クレタ島でスチュワードプログラム(18歳から30歳までの青年が対象)が開催される。この参加者を募集する。応募締め切りは3月15日。申込者の中から25名を選抜する。」

次回以降の会議

2月23日(木)、3月22日(木)

□各教区

東京

- ・教区事務所総主事兼教務主事小川昌之氏
2011年12月31日付依願退職

横浜

- ・信徒神学校特別講演会 2月18日(土) 15時～16時半 講師:大江満氏(立教学院史

2011年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	大町信也(長) 石塚正史	下澤 昌(書記) 神谷順子	李 香男 津田武典
東北	聖職 信徒	八戸 功(長) 阿部禧典	中山 茂(書記) 長井 淳	長谷川清純 渡部和夫
北関東	聖職 信徒	斎藤英樹(長) 谷川 誠	興石 勇 横川 浩	小野寺 達(書記) 菊池邦杏
東京	聖職 信徒	笹森田鶴(長) 松田正人	下条裕章 黒澤圭子(書記)	佐々木道人 松平健次
横浜	聖職 信徒	長野 睦 中林三平	河崎 望(長) 宮崎道忠	入江 修 村井恵子
中部	聖職 信徒	野村 潔(長) 牛島達夫	土井宏純(書記) 徳山義章	西原廉太 平部延幸
京都	聖職 信徒	黒田 裕(長) 伊藤美佐子	石塚秀司 川村寿一	池本則子(書記) 佐々木靖子
大阪	聖職 信徒	山本 眞 長野泰信(書記)	岩城 聰(長) 佐野信三	磯 晴久 畑野めぐみ
神戸	聖職 信徒	芳我秀一(長) 大東康人	上原信幸(書記) 宮永好章	小南 晃 橋口 満
九州	聖職 信徒	堀尾憲孝(長) 秋山献之	中村 正 蔵元英一	小林史明(書記) 東美香子
沖縄	聖職 信徒	上原榮正(長) 大倉信彦	戸塚鉄也 高嶺初子	高良孝太郎(書記) 新崎久美子

■訂正とお詫び

前号掲載の2011年教区会選出常置委員一覧に誤りがありました。該当の大阪教区、沖縄教区の方には大変申し訳ありませんでした。訂正して改めて掲載いたします。

料センター) テーマ:「南東京地方部形成の歩み(仮題)」 参加費無料

- ・東日本大震災一周年記念礼拝と講演会 3月3日(土) 横浜聖アンデレ教会 講師:シスター高木慶子(カトリック・援助修道会、上智大学教授、同大学グリーンケア研究所長)

□神学校

聖公会神学院

- ・短期集中講座『琵琶音楽史の観点から日本宣教を検討する』 2月14日(火)～17日(金) 講師:ジョージ・W・ギッシュ(日本文学研究者) 申込締切:2月6日 問い合わせ:聖公会神学院

□関係諸団体等

第1回U26集会 (Under26=26歳以下の日本聖公会内青年の集まり) 2月17日(金)～18日(土)、市川市少年自然の家 参加資格:1993年度生まれ～1985年度生まれ(受洗の有無は問わず)

*U26(通称:ゆーじろー):「知る・つながる・教会の絆」をスローガンに、「教会につながっている人たちと、学校で遊ぶみたいに遊べたら」「普段話せないこ

とを話せたら」「日本全国に友達をつくれたら」という思いで活動をおこなっている18歳～26歳を対象とした聖公会の青年グループ(代表:高木 泉さん[北海道教区])管区の青年委員会はこの活動を支援」



†逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ペテロ宮本憲二郎(九州教区・休職)
2011年12月21日(水) 逝去(65歳)

《人 事》

東北

<信徒奉事者認可> 2012年1月1日付
(盛岡聖公会) ペテロ阿部禧典、ルカ赤坂徹
(大館聖パウロ教会) クララ小田切光子、オーガスチン戸枝正樹、ヨセフ佐藤進、マルタ藤原久子、ヤコブ青山仁、マルタ田畑瑠美子

東京

主教 アンデレ大畑喜道 2011年12月31日付 聖アンデレ教会管理牧師解任
司祭 マリア・グレース笹森田鶴 2011年12月31日付 聖アンデレ教会副牧師解任
2012年1月1日付 聖アンデレ教会牧師および聖アンデレ主教座聖堂主任司祭任命

横浜

主教 ローレンス三鍋 裕 2011年12月31日付 柏聖アンデレ教会管理牧師の任を解く。
司祭 ペテロ松田 浩 2012年1月1日付 柏聖アンデレ教会牧師に任命する。
司祭 レナード・エヴァンズ 2011年12月1日付 司祭イグナシオ入江修の管理のもとで、クライストチャーチにおいて囑託司祭及び横浜山手聖公会協働司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

中部

司祭 ヨセフ下原太介 2012年3月31日付 岐阜聖パウロ教会牧師及び大垣聖ペテロ教会牧師の任を解く。
2012年4月1日付 上田聖ミカエル及諸天使教会牧師に任命する。
司祭 テモテ土井宏純 2012年3月31日付 上田聖ミカエル及諸天使教会管理牧師の任を解く。
主教 ペテロ洪澤一郎 2012年4月1日付 岐阜聖パウロ教会管理牧師及び大垣聖ペテロ教会協力牧師に任命する。
司祭 ペテロ松本正俊 2012年4月1日付 大垣聖ペテロ教会管理牧師及び岐阜聖パウロ教会協力牧師に任命する。
司祭 ペテロ田中 誠 2012年4月1日付 学校法人柳城学院名古屋柳城短期大学チャ

京都

モーセ石垣 進	2012年1月1日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
司祭 ヨブ加納嘉人	2012年3月31日付	上野聖ヨハネ教会牧師の任を解く。
	2012年4月1日付	新宮聖公会牧師に任命する。
司祭 パウロ北山和民	2012年3月31日付	新宮聖公会管理の委嘱を解く。
執事 ヨハネ荒木太一	2012年3月31日付	新宮聖公会牧師補の任を解く。
	2012年4月1日付	上野聖ヨハネ教会牧師補に任命する。
司祭 サムエル小林宏治	2012年3月31日付	橋本基督教会および笠田基督教会牧師の任を解く。五條聖三一教会管理の任を解く。
	2012年4月1日付	立教学院への出向を命じる。
司祭 セオドラ池本則子	2012年3月31日付	桑名エピファニー教会および四日市聖アンデレ教会牧師の任を解く。
	2012年4月1日付	橋本基督教会および笠田基督教会牧師に任命する。五條聖三一教会の管理を委嘱する。
執事 アントニオ出口 崇	2012年3月31日付	京都復活教会牧師補の任を解く。
	2012年4月1日付	桑名エピファニー教会および四日市聖アンデレ教会牧師補に任命する。
司祭 ヨハネ吉田雅人(神戸)	2012年3月31日付	京都復活教会協働司祭の任を解く。
司祭 テモテ宮嶋 眞	2012年4月1日付	桑名エピファニー教会の管理を委嘱する。
司祭 ヨハネ石塚秀司	2012年3月31日付	奈良基督教会牧師の任を解く。
	2012年4月1日付	高田基督教会管理の委嘱を解く。
	2012年4月1日付	京都復活教会牧師に任命する。
司祭 ヨハネ井田 泉	2012年3月31日付	四日市聖アンデレ教会の管理を委嘱する。
	2012年4月1日付	京都聖三一教会牧師の任を解く。
	2012年4月1日付	奈良基督教会牧師に任命する。
司祭 ヨシユア柳原義之	2012年3月31日付	高田基督教会の管理を委嘱する。
	2012年4月1日付	加悦聖三一教会および東舞鶴聖パウロ教会牧師の任を解く。宮津聖アンデレ教会管理の委嘱を解く。
主教 ステパノ高地 敬	2012年4月1日付	京都聖三一教会牧師に任命する。
	2012年3月31日付	岸和田復活教会および京都復活教会管理の委嘱を解く。
	2012年4月1日付	上野聖ヨハネ教会、東舞鶴聖パウロ教会、加悦聖三一教会および宮津聖アンデレ教会の管理を委嘱する。
司祭 シモン林 永寅	2012年3月31日付	岸和田復活教会副牧師の任を解く。
	2012年4月1日付	岸和田復活教会牧師に任命する。
司祭 アンデレ小松幸男(退)	2012年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、菰野聖マリア教会(伝道所)において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

大阪

司祭 フランシス・チョウ・ジョンピル

2011年12月31日をもって休養を解く。

2012年1月1日より、恵我之荘聖マタイ教会牧師として復帰することを命じる。

主教 サムエル大西 修

2011年12月31日をもって恵我之荘聖マタイ教会管理牧師の任を解く。

司祭 モーゼ任 大彬

2012年1月1日付 主教座聖堂付の勤務を解き、カナダ聖公会ニューウェストミンスター教区バンクーバー・ホーリークロス教会(Holy Cross Japanese Canadian Church, Vancouver)への出向を許可する。

<信徒奉事者認可>

2012年1月1日付 任期1年

(芦屋聖マルコ教会)

錦織依子、辻潤、長野紀子、和田育子

(西宮聖ペテロ教会)

岡田東一、久保孝彦、倉戸ナオミ、瀬戸栄一

(石橋聖トマス教会)

服部喜代司、原楨寿子、牧口真理、山崎信

(守口復活教会)

小野創、原田契

(大阪聖ヨハネ教会)

興津健蔵、野地卓司、廣政博

(大阪聖パウロ教会)

浅田通子、町中岳

(川口基督教会)

内海良輔、社領共美、高橋明子、田中史、野上千春、ユース・ヒューム、横倉宏

(大阪聖愛教会)

石井英隆、米虫克次、田中恵子、松岡興二

(大阪聖アンデレ教会)

佐野重雄、高見澤毅、花木和範

(大阪聖三一教会)

高田須磨雄

(恵我之荘聖マタイ教会)

鈴木靖夫、春名英夫

神戸

司祭 ヨハネ角瀬克己

2012年3月31日付 大洲聖公会管理牧師の任を解く。

2012年4月1日付

岡山聖オーガスチン教会管理牧師に任命する。

司祭 ペテロパウロ柳本博人

2012年3月31日付

学校法人立教学院出向の任を解く。

2012年4月1日付

松山聖アンデレ教会牧師に任命する。大洲聖公会管理牧師に任命する。

司祭 オーガスチン與賀田光嗣

2012年3月31日付

松山聖アンデレ教会管理牧師の任を解く。

司祭 バジル八代 智

2012年4月1日付

学校法人八代学院への出向期間を延長する。2014年3月31日まで。

九州

<信徒奉事者認可>

(佐世保復活教会)

辻裕子

(直方キリスト教会)

君原實

(小倉インマヌエル教会)

石田和史、田中徳輝、平上千鶴子、ピーター・フリーボーン、河原忍

(菊池黎明教会)

蒲池近江、高橋尚子

(鹿児島復活教会)

島紀夫、坂口義孝

(福岡ベテル教会) 田中寛、簗田紘子
 (福岡聖パウロ教会) 外池圭二、大堀満子、秋山献之、有村元伸、園木一男、吉鹿善郎
 (熊本聖三一教会) 島卓郎

沖繩

主教 ダビデ谷 昌二	2012年3月31日付	愛楽園祈りの家教会、屋我地聖ルカ教会および名護聖ヨハネ教会の管理牧師の任を解き定年退職とする。
司祭 ペテロ高良孝太郎	2012年3月31日付 2012年4月1日付	豊見城聖マルコ教会管理牧師の任を解く。 愛楽園祈りの家教会および屋我地聖ルカ教会の管理牧師を命ずる。
司祭 ヨハネ棚原恵正(退)	2012年4月1日付	管理牧師司祭ペテロ高良孝太郎のもと屋我地聖ルカ教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(法規により任期1年)
司祭 ミカエル津留孝夫(退)	2012年4月1日付	管理牧師司祭ペテロ高良孝太郎のもと愛楽園祈りの家教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(法規により任期1年)
司祭 マッテヤ高良孝誠(退)	2012年4月1日付	管理牧師ダビデ上原榮正のもと名護聖ヨハネ教会囑託司祭として勤務することを委嘱する。(法規により任期1年)
司祭 ダビデ上原榮正	2012年4月1日付	名護聖ヨハネ教会管理牧師を命ずる。
司祭 イザヤ ^{キム ジョンス} 金 平 洙	2012年4月1日付	第1主日愛楽園祈りの家教会、第2、第3および第5主日島袋諸聖徒教会、第4主日、名護聖ヨハネ教会の協働司祭を命ずる。
聖職候補生 ルシア並里輝枝	2012年4月1日付	三原聖ペテロ聖パウロ教会牧師司祭ダビデ上原榮正のもとで勤務することを命ずる。
聖職候補生 グロリア西平妙子	2012年4月1日付	小祿聖マタイ教会牧師司祭ペテロ高良孝太郎のもとで勤務することを命ずる。

2012年2月12日 ハンセン病問題への理解が深まるための祈り

毎年顕現後第6主日をハンセン病問題啓発の日とし、その日にはそれに相応しい祈りを捧げる。顕現後第6主日がない年は大斎節前主日の直前の主日。(第55(定期)総会決議第30号)

慈しみ深い神よ、み子イエス・キリストは病気のために差別された人々を深く憐れみ、み手を差し伸べて癒されました。キリストに倣って生きる者とされたわたしたちは、一人ひとりが大切にされて生きる社会を築こうと願い求めます。ことにハンセン病を患ったために社会から見捨てられ、苦渋の人生を生きなければならなかった人々の苦しみを思います。これまでに、この苦しみに関心を寄せず、また差別する社会を改める働きをしてこなかったことを思い、懺悔いたします。どうか、すべての人々が、この病気の実情、また回復者の現実など、ハンセン病をめぐる問題を理解することによって、み心にかなう社会を建設することができますように、多くの苦しみの中にある人々の友となり歩まれたみ子、わたしたちの主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

(2010年1月 管区人権問題担当者作成)

「各教区・正義と平和担当者の集い」を開催

— 1月15日～16日・京都 —

2012年1月15日(日)～16日(月)、京都教区センターを会場に、「各教区・正義と平和担当者の集い」が開催されました。今回の目的は、次の4つです。

- 1 「正義と平和」から「平和と正義」へ—発題：谷昌二主教(正義と平和委員長)
- 2 各教区での正義と平和に関する活動報告
- 3 公開講演会：「いのちと原発」
 - ・チェルノブイリから見た体内被曝の現状—河田昌東(まさはる)氏
 - ・被災地からの報告—越山健蔵司祭
- 4 管区の「正義と平和」委員会からの活動報告

1) 「正義と平和」から「平和と正義」へ：発題 谷 昌二主教

教会で、正義や平和のことを話し出すと、何か場違いな感覚をもって受け止められ、それは私たちの問題でないと無視されたり、或いは、強く反発されることがあったりするとよく言われます。これは、聖公会ばかりでなく、どこの教派にもあると聞いています。どうしてそうなのか？ どうしたら良いのか？ ずっと考え、祈り続けてきたことから、一つのヒントを与えられました。

正義と平和という表現に問題がありそうです。正義によって平和が達成されるとの印象が強くなります。旧約聖書には、この考え方が主流を占めています。この正義は、あくまでも神の正義に基づくものですが、この正義の責任を負う者、即ち国の政治家や宗教指導者が、神の心に添った正義を行って、平和が達成されるとの考えです。

これに対して、新約聖書の「平和」は違います。ヨハネ14の27：“わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和をあなたがたに与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。”そして、復活の日、恐れる弟子たちの真ん中に立ち言われました。「あなたがたに平和があるように。」20：19

ここでの理解は、「平和」は、イエス・キリストの復活の命に生かされることによって、私たち一人ひとりに与えられるものである。これが私たちの信仰の原点です。わたしたち一人ひとりの「命」から、平和を捉える。主の命に生かされる平和が先にあって、その実現の道を探るのが正義です。平和は、正義に先立って実現されているのです。

今、国連で、個人個人の「平和への権利」を国際的に法典化する運動が続けられて、「人民の平和への権利」宣言が、2015年の国連総会での採択を目指して、今年の6月の人権理事会で審議・採択されようとしています。日本国憲法でも平和的生存権が、大きな柱になっています。まず、一人ひとりの平和の実現こそ、わたしたちの大きな課題であり、そのための正義です。教会で「正義と平和」を考えるヒントにしてください。

この後、この発題をもとに、4つのグループに分かれて話し合いがなされました。

2) 各教区での活動報告

今回は、どこの教区でも、東日本大震災への支援活動が、組織化されて活発に行われている

こと、又、原発について学ぶことが、真剣になされていることが特徴的でした。又、路上生活者支援が、5教区で行われていることで、分かち合いがなされました。戦争と平和に関する集会・礼拝・旅も、引き続き行われています。

3) 公開講演会

○チェルノブイリから見た体内被曝の現状—河田昌東氏

今回の福島原発事故は、チェルノブイリやスリーマイル島での事故とは、全く違う要素があること。事故後、ずっと現在に至るまで放射能が放出され続けていることに問題があることが明らかにされました。そして、放射能被害は、外部被曝よりも体内被曝が恐ろしく、10年後、20年後に何が起こるのか、チェルノブイリの体験から真剣に学ばなくてはならないことが指摘され、今、公に出されている放射能の安全暫定基準は、大変、甘いものであることも教えられました。体内被曝は遺伝子に影響を与え、それが癌の原因となることは良く知られています。が、それ以上に、体内被曝によって加齢（老化）が進み、成人病（糖尿病、心臓病、高血圧など）が非常に多くなることだということです。国の医療保険制度がとても心配です。

しかし、これから放射能汚染のもとでどのように生きるのか。全く絶望的でないこともお話しくださいました。子どもたちを放射能から守る方法、放射能に強い食べ物の取り方、又、放射能汚染の土地での菜の花栽培から、汚染を減らし、バイオ燃料を作つての農業の再生など、20年ずっとチェルノブイリに通い続けた河田さんならではのお話に、強く感動を与えられました。参考図書：「チェルノブイリの菜の花畑から」想森社

○被災地からの報告—越山健蔵司祭

越山司祭から、現地、福島県郡山からの、生々しい、そして、非常に厳しい報告があり、先の河田さんのお話とは全く対照的な現実に、衝撃が与えられました。特に、幼稚園での放射能から守る様々な苦勞、毎日の除染の有様、又、子どもたちや保護者の疲れと、諦めに似た反応など、重くのしかかる思いがしました。越山司祭が、最も強く訴えられたことは、とにかく、ゆっくり時間をかけて来てみてください。現地の人々と交流して、その深い思いを聞いてくださいと言う事でした。河田さんの体験からも、じっくり腰をすえて、交わり続ける必要性を感じ、決断を迫られた思いがしました。

この公開講演会には、正義と平和担当者以外に33名参加、合計53名でした。

4) 管区「正義と平和」委員会からの報告

特に大事なものとしては、憲法プロジェクトから「ニューズレター」が出されたこと、環境問題担当者として、原発に関する考えをまとめる作業をすること、沖縄の旅の実施、日韓協働で2013年の初夏、第2回聖公会世界平和協議会が沖縄で開催されることなどが報告されました。

今回は、北海道教区と東北教区が欠席でした。

(報告) 正義と平和委員会委員長 主教 谷 昌二

■刊行物紹介

北関東教区より下記のご案内をいただきましたので紹介します。

リー教母喜寿祝賀記念録・『かあさま』の復刻版を発行

日本聖公会北関東教区聖バルナバミッションとリー女史記念事業推進委員会では2011年11月23日に、「かあさま」・リー教母喜寿祝賀記念録の復刻版を発行しました。

1907年、英国のカンタベリー出身の宣教師メアリ・ヘレナ・コンウォール・リー女史は50歳の時に来日して、当時の南東京地方部の千葉、横浜、東京の各地で宣教師としてお働きになりました。やがて群馬県の草津の地において、59歳の時、ハンセン病患者の集落であった湯の澤地区に身を置いて病者と共に生き、生涯をささげられました。

1934年、リー女史の喜寿を祝って発行された当時の記念録を復刻したものがこの本です。リー女史の生き方やお働きを知る上で、大変参考になります。77年前の昔の記録ですので、旧かな遣いや、難解な語彙が多かったため、ルビを振ったり、注釈を付けて若い世代の方々にも読みやすいように心がけました。ぜひお読みいただけますようご案内いたします。リー女史記念の資料館建設のため1冊1000円で頒布させていただいております。なお送料は別料金となります。教会単位などでまとめてくださると幸いです。

お問い合わせは、日本聖公会北関東教区教務所までお願いします。

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町2-172

Tel 048-642-2680 Fax 048-648-035 *火曜日、土曜日はお休みです。



■児童の作文「母様」

リー教母喜寿祝賀記念録『かあさま』復刻版は、B6判・口絵写真4頁、本文150頁。

教会員、地域の人々、バルナバホーム、教会関係者からの祝辞・文章などから構成され、西條八十の詩「母の膝」も収められている。

その中には「母様」と題して当時の尋常小学校の子どもたちが書いた10編の作文があるのも、リー女史の優しさと人徳が子どもたちの心に焼きついていたことを物語っている。名前の上に記される「尋三」は尋常小学校三年生、「高一」は尋常小学校高等科一年生のこと。表記は現代仮名遣いに改められているが、当時の子どもたちの深い思いがにじみ出て、表現力の高さを感ぜさせられる。(管区事務所広報主事・鈴木)

かあさま 尋三 きみえ

おめでとう。かあさま。うれしいおたんじょう日をおむかえすることができました。おかあさまはもう今年で七十七年めのたんじょう日でございます。かあさまはこまっている人をたすけます。又かあさまは私たちのためにわざわざとおい国からここまできて下さいました。

私はかあさまがながくいきていてくださるよう
に神様においのりします。

お母様 高一 芳夫

お母様は大正四年に草津へ来て大正五年に人々を救いはじめ、今まで、長い間人を救い、今は、七十七歳の老人とおなりなさいましたが、なお一生懸命に病者を救うために質素な風をして

働いていらっしゃいます。お母様は、貴族の家に生まれ、印度駐劄軍ちゅうさつの司令官を父に持つお方でありながら、日本の国へ来て今なお屈ひるまず、病者のために骨を折っていらっしゃいます。そしてお母様に救はれて居る信者は二百五十人ばかりです。お母様は絵と、音楽が上手です。

お母様 高一 せつ子

お母様のお誕生日は五月二十日です。お母様は大正四年に草津にいらっしゃいました。そして

多くの病者をお救いなさいました。お母様のお父様は印度駐劄軍ちゅうさつの司令官でいらっしゃいました。草津の人はお母様が歩いていると悪口を言ったり石をなげたりしましたが、お母様はそれをもがまんして伝道をなさいました。そしてお母様はたいへん質素なふうをなさって私たちのために働いて下さいます。お母様は遠い自分のお国から離れて草津に来て一生を献げて下さいました事をほんとうに感謝して居ります。



東日本大震災支援

「いっしょに歩こう!プロジェクト」 仙台オフィスから ⑦

—二つの「外国人支援プログラム」—

特命担当主事 司祭 パウロ 中村 淳

「いっしょに歩こう!プロジェクト」DVDの英語版が出来ました。海外への発送はプロジェクトオフィスで行います。国内で必要な方は管区事務所もしくは仙台オフィスまでお問い合わせください。この大震災支援の活動には海外からも多くの献金をいただいています。海外へ向けた活動の報告のために、すでにお配りしてあるDVDを翻訳いたしました。

今回は海外からの関心が高い、外国人支援プログラムについてご紹介します。

現在、外国人支援プログラムは二つ行われています。ひとつは南三陸町志津川でのフィリピン人女性たちへの支援、もうひとつは石巻での、みなし仮設住宅に住む外国人の女性たちへの支援です。志津川のフィリピン人女性への支援

はニュースレターでもご報告していますが、その後の様子をお知らせしたいと思います。

志津川のフィリピン人女性たちは皆、日本人のお連れ合いと結婚されてこの町に暮らす人々です。津波によって大きな被害を受けました。彼女たちの希望によって、日本語の読み書きとホームヘルパー2級の資格を取る勉強を支援しています。

7月に始まった日本語読み書きクラスは12月で終了します。11月から平行して行われてきたホームヘルパー取得講座の勉強も、最初の課題である3回のレポート提出が終了し、全員が合格することが出来ました。これによって1月からは協力してくれている仙台の講座開設者である学校によって、スクーリングが始まります。仙台まで通うことが出来ない彼女たちのためにこの学校は志津川への出張講座を設けてくれました。毎週土曜日朝9時半から5時半までの講義と実技指導が8回にわたって行われます。このスクーリングが終わると現場実習となります。3月末か4月始めに志津川の社会福祉協議会の協力の

もと、実習が施設で行われます。それらがすべて終了するとホームヘルパー2級の資格を得ることが出来ます。

彼女たちは本当によく勉強します。わたし達は彼女たちのお連れ合いとお会いすることもあります。皆さん口をそろえて「漢字がかなり読めるようになった」と喜んでくださっています。このことが、震災後のしんどい状況の中をご家族が前に進むことが出来る力となったならば、大変うれしいことだと思っています。

もうひとつの石巻の、みなし仮設住宅に住まわれるご家族たちは、沿岸部で家を流されてしまい、石巻市内のアパートで暮らす外国人のお母さんたちです。国籍は台湾、ベトナム、ポリビア、フィリピン等多岐にわたります。ご主人を津波でなくされたり、遠いところへ働きに送り出している方々です。彼女たちは長い間支援の枠組みから外れていました。10月からわたしが支援物資をお届けしましたが、最初の時には「支援物資を初めて受け取った」とおっしゃっていました。支援物資の受け取り方や支援される方法がわからなかったのです。彼女たちとは志津川でのプロ

グラムに参加してくれている地元仙台の「外国人の子供を助ける会」のメンバーからのレスキューコールによってつながりました。今でも定期的にスタッフが訪問し、必要な物資をお届けし、子供たちと遊ぶ時間を作っています。ほとんどの子供たちが転校を余儀なくされているために、なかなか友達が出来ないそうです。私たちは若いスタッフを担当として、力いっぱい遊べるようにしています。

被災地で多くの支援団体が活動していますが、外国人を対象とした活動は本当に少ないのです。私たちが出来ることは限られたこと、限られた人々への支援にとどまっています。しかし、この私たちの活動が呼び水となって、多くの方々が外国人の支援に携わってくださるようお願いしています。

 **いっしょに歩こう！
プロジェクト**
日本聖公会東日本大震災被災者支援
ホームページ
<http://nssk.org/walk/>



鉄骨だけが残る南三陸町志津川防災庁舎。殉職した職員を悼む献花が絶えない。



震災の地盤沈下で海面に没した南三陸女川町の市街地。4階建てのビルが横倒しになっている。

■撮影・2011年11月22日管区事務所広報主事・鈴木一

日本聖公会管区事務所ホームページ：<http://www.nssk.org/province/>
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。
comm-sec.po@nssk.org 広報主事(鈴木)宛て